

# 和讃で学ぶ浄土真宗

## 最終回「念仏者の生活」

相愛大学准教授

佐々木 隆晃 (ささき・たかあき)

親鸞聖人がお書きになられた和讃は、「和語の『教行信証』」と呼ばれ、浄土真宗の法義が余すところなく讃嘆されています。本連載は、500首以上もある和讃の中からテーマ別に8首の和讃を選び、それらを通して、浄土真宗をまるごと学んでしまおうという、すこし欲張りな企画です。

最終回は、「念仏者の生活」がテーマです。浄土真宗のみ教えに出会い、南無阿弥陀仏とともに浄土への道を歩む念仏者の生活について、親鸞聖人のお示しを味わわせていただきます。

本文

如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

ほねをくだきても謝すべし

（『正像末和讃』三時讃、六一〇頁）

現代語訳

わたしたちをお救いくださる阿弥陀仏の大いなる慈悲の恩徳と、教え導いてくださる釈尊や祖師がたの恩徳に、身を粉にしても骨を砕いても、深く感謝して報いていかなければならない。

（『三帖和讃（現代語版）』、一六三頁）